

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p><b>多部制単位制高校の意義をふまえ、生徒や保護者、地域等の期待に応える教育活動を常に研究しながら、進化する学校をめざす。</b></p> <p>1 本校のあり方や方向性を検討しながら教育活動を推進し、生徒や保護者、地域等の期待に応える学校をめざす。</p> <p>2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ力を身につけた生徒を育てるとともに、希望する進路を実現できる学校をめざす。</p> <p>3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性（規範意識・ボランティア精神等）を身に付けた生徒を育て、誰もが安心して学べる学校をめざす。</p>
--

### 2 中期的目標

<p><b>1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開</b></p> <p>(1) 現状の分析と生徒・保護者等の期待の把握を行い、必要な取組を計画する。 ア 生徒の現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携を図る。</p> <p>(2) 本校の教育活動への理解を促進するため、広報活動の充実を図る。 ※ 府内90%以上の公立中学校以上に本校の案内をする。</p> <p>(3) 職員研修の充実により、常に人権意識と教育力の向上を図る。</p> <p>(4) 学校協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。 ※ 保護者向け学校教育自己診断の「生徒指導や進路面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定的回答率（平成24年度66%）を平成27年度には75%にする。 ※ 地域との連携を深め、地域の事業所等での職場体験やインターンシップを実施する。</p> <p><b>2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導體制の充実</b></p> <p>(1) 希望進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。 ア 桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を完成させて実践する。 ※ 自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解等の向上（アウトカム指標で全項目プラス評価） ※ 進路未定率の減少（平成25年度と比較して5ポイント以上減少）</p> <p>(2) 充実した学びなおしの環境をめざす。 ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、学校設定科目の増設や習熟度別編成を強化 イ 希望進路実現のための自学自習の場所提供や補習・講習の充実 ウ 学習意欲の向上を図るため、学外の学習機関との連携や学習評価について研究する。</p> <p>(3) 生徒の授業評価や授業公開を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（平成24年度41%）を27年度までに65%以上に維持させる。</p> <p><b>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立</b></p> <p>(1) 「総合的な学習の時間」や特別活動等で人権教育を充実 ア 人権教育でフィールドワークやワークショップなどのメニューを開発する。 イ コミュニケーション能力を高めるため、自ら考え発信できる教材を開発する。</p> <p>(2) 中退防止PTを中心に、現状分析と生徒指導體制を確立する。</p> <p>(3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を確立する。 ア 外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。</p> <p>(4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動、部活動）を充実し、社会性を育成する。 ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの参加者を増やす環境づくりをめざす。 ※ 生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（平成24年度36%）を平成27年度までに60%以上に維持する。</p>
--

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見																																																												
<p><b>【特徴的な回答】</b> &lt;数値は肯定的な回答の割合&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>学校に対する意識</b></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>桃谷高校に入学してよかった。</td> <td>86%</td> <td>96%</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>生徒や保護者のニーズにあった特色がある。</td> <td>88%</td> <td>97%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>授業はわかりやすく楽しい。</td> <td>75%</td> <td>84%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td><b>生徒指導・教育相談</b></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校生活についての先生の指導は納得できる。</td> <td>85%</td> <td>92%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。</td> <td>73%</td> <td>78%</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。</td> <td>64%</td> <td>83%</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td><b>キャリア教育・進路指導</b></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>将来の進路や生き方について考える機会がある。</td> <td>79%</td> <td>88%</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>生徒指導や進路面で家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行なっている。</td> <td>78%</td> <td>81%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td><b>学校運営</b></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>災害時の行動について、具体的に知らされている。</td> <td>65%</td> <td>78%</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>施設・設備は、活動がしやすいよう整備されている。</td> <td>79%</td> <td>84%</td> <td>23%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【結果分析と課題】</b> ※網掛けは、中期的目標の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者は、本校の特色をよく理解しており、入学したことについて高い満足感を持っている。</li> <li>全教員が、わかりやすい授業のための努力をしており、生徒・保護者の評価も3年連続上昇している。(生徒41%→71%→75% 保護者45%→68%→84%)</li> <li>キャリア教育への取り組みは、生徒・保護者から一定の評価を得ているが、教員の自己評価は64%と低い。系統的实施により教員の自己評価を高め、キャリア教育の充実を図り「生きる力」の向上に努めたい。</li> <li>災害発生時の対応については、昨年度より評価が上昇しているものの、不十分な値であり、防災への取組みを一層進める必要がある。</li> <li>施設・設備については、運用の工夫で生徒・保護者の評価は得ているものの、教室使用にも制限があるなど十分な教育活動を行なえる状況になく、抜本的改善が必要である。</li> <li>生徒・保護者の肯定的な回答は、すべての項目で昨年度より増加している。(肯定的回答率の平均 生徒68%→72% 保護者70%→81%)</li> <li>中期的目標に掲げた指標は、目標値(授業65%・相談60%・家庭連絡75%)に対して、結果(授業75%・相談64%・家庭連絡81%)と全て達成することができた。</li> </ul>	内 容	生徒	保護者	教員	<b>学校に対する意識</b>				桃谷高校に入学してよかった。	86%	96%	89%	生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	88%	97%	95%	授業はわかりやすく楽しい。	75%	84%	100%	<b>生徒指導・教育相談</b>				学校生活についての先生の指導は納得できる。	85%	92%	73%	学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。	73%	78%	77%	担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。	64%	83%	68%	<b>キャリア教育・進路指導</b>				将来の進路や生き方について考える機会がある。	79%	88%	64%	生徒指導や進路面で家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行なっている。	78%	81%	80%	<b>学校運営</b>				災害時の行動について、具体的に知らされている。	65%	78%	50%	施設・設備は、活動がしやすいよう整備されている。	79%	84%	23%	<p><b>【第1回】平成26年7月28日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画は、成長の流れが見えるものを幼・小・中が連携して作成して引き継ぐことが必要である。</li> <li>『「生きる力」の育成』を教育の柱として前面に打ち出したことは大変素晴らしい。</li> </ul> <p><b>【第2回】平成26年12月3日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I II部のアドミッションポリシーの姿勢をみて感動した。</li> <li>プライドを持ち、学び直しができ、目標に向かって推進するという内容を盛り込んでいった方が生徒も前向きになれるのではないかと。</li> <li>桃谷高校は居場所を求めてやって来る生徒の希望を叶える学校になって欲しい。自分を育ててもらえると感じることでできる学校になって欲しい。何とか中学校が頑張っ、バトンを渡せる高校に桃谷高校はなって欲しい。</li> </ul> <p><b>【第3回】平成27年2月9日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分を育ててくれるという意識が教員にも大事である。その点、メンター制度は効果的である。それが、生徒の自尊感情の醸成にもつながるのではないかと。メンター制度は大変いい取り組みだと思ふ。</li> <li>すべての教員が生徒に寄り添って育ててくれるという思いが生徒にあれば、生徒は自尊感情を養うことができる。</li> <li>「共に学びあう」・「多様性」がこの学校では重要なキーワードである。生徒たちがどのように自尊感情や自己理解、また人の気持ちを思いやる気持ちを養っているのか。人の気持ちを考える「共感性」についても学校評価の項目に加えてよいと思ふ。おそらく、生徒も共感性を養っていると思ふ。</li> </ul>
内 容	生徒	保護者	教員																																																										
<b>学校に対する意識</b>																																																													
桃谷高校に入学してよかった。	86%	96%	89%																																																										
生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	88%	97%	95%																																																										
授業はわかりやすく楽しい。	75%	84%	100%																																																										
<b>生徒指導・教育相談</b>																																																													
学校生活についての先生の指導は納得できる。	85%	92%	73%																																																										
学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。	73%	78%	77%																																																										
担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。	64%	83%	68%																																																										
<b>キャリア教育・進路指導</b>																																																													
将来の進路や生き方について考える機会がある。	79%	88%	64%																																																										
生徒指導や進路面で家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行なっている。	78%	81%	80%																																																										
<b>学校運営</b>																																																													
災害時の行動について、具体的に知らされている。	65%	78%	50%																																																										
施設・設備は、活動がしやすいよう整備されている。	79%	84%	23%																																																										

府立桃谷高等学校 (C S I II部)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開</p>	<p>(1)本校のあり方や方向性の検討 (2)本校への理解を促進する広報活動の充実 (3)学校力向上のための職員研修の充実 ア 職員研修の系統的实施 イ OJT 方式による経験別課題研修の実施 ウ 参加型研修による実践力の向上 (4)地域等及び保護者との連携</p>	<p>(1) ・府立高校再編整備方針をもとに、本校が果たす役割と卒業時のコンピテンスを検討 (2) ・府内すべての公立中学校への案内 ・本校の特色が体感できる中学校向けの体験授業等の充実 (3) ア・引き続き研修の系統的な整理を進め、研修による教員力・学校力の向上の仕組みの定着を図る イ・初任者研修を活用した2年目・10年目教員の育成 ・2年目教員への学校運営を学ぶ研修 ・学校力向上をテーマとしたミドルリーダー育成のための研修 ウ・グループワーク形式などを取り入れた参加体験型研修による実践力の向上とファシリテート力の向上 (4) ・地域の事業所等と連携した教育活動を、授業や総合学習等を通じて行う。 ・保護者とのコミュニケーションの充実</p>	<p>(1) ・卒業時のコンピテンスを作成して共有する。 (2) ・公立中学全校に案内。 ・実際の生徒の様子がわかる体験授業等の実施(2回) (3) ア・研修委員会等を立ち上げて研修を一元的に整理する。 ・初任者・2年目・10年目教員がコラボした指導力向上研修の実施(5回) イ・2年目教員による学校説明会や学校協議会事務局でのOJTを実施 ・ミドルリーダー育成のためのOJTの実施 ウ・参加体験型研修の実施(3回以上) (4) ・地域等と連携した授業の実施(5回) ・学校教育自己診断(保護者)の家庭連絡に関する項目の肯定回答率を75%にする。</p>	<p>(1) ・「セーフティネット」の役割を担い「生きる力」を育むことを核に全ての教育活動でコンピテンスを作成、学校教育計画に掲載して共有した。(○) (2) ・全公立中学校に文書案内するとともにHPにも体験授業の案内を掲載して本校への理解促進に努めた(○) ・在校生とともに受ける体験授業を2回実施。広報の成果もあり参加者が約3倍に増加した(◎) (3) ア・校内研修は運営委員会で一元的に扱い、中期的計画により学校力向上に資する仕組みにした(○) ・初任者・2年目・10年目教員がコラボした指導力向上研修を5回実施。2～4年目の教員を初任者のメンターに位置付けることで相互の成長が図れた(◎) イ・2年目教員に、学校説明会でのプレゼン及び学校協議会での記録を担当させ、OJTにより学校運営への意識を高めた。(○) ・ミドルリーダーの育成は、総合学習やキャリア教育のシステム改編・教材開発などの取組みを通じてOJTで行い、次世代を担う意識が形成された(○) ウ・アサーティブトレーニング、ファシリテーション研修など参加体験型研修を3回実施した。(○) (4) ・地域等と連携した授業を10講座で計21回実施した。(◎) ・学校教育自己診断(保護者)の家庭連絡に関する項目の肯定回答率は、81%となった。(◎)</p>
<p>2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導体制の充実</p>	<p>(1)「学びのシステム」の構築 ア わかりやすい「学びのシステム」の再構築 イ キャリア教育を核に据えた教育活動の系統化 ウ 実社会に触れる学びの実践 (2)授業力の向上 エ 「わかる授業」の視点による授業研究 オ 基礎的・汎用的能力を育成する授業の研究</p>	<p>(1) ア・「学び直し」に加え「自立」を促すことのできる「学びのシステム」の構築を検討する。 イ・全ての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、自尊心・自己有用感の醸成からコミュニケーション能力や課題対応能力など基礎的・汎用的能力すなわち「生きる力」の育む桃谷版キャリア教育「ももだにプロジェクト」を実践する。 ・全教員のキャリア・カウンセリング力の向上を図る。 ウ・キャリア教育の一環として、地域や関係機関等と連携した授業等を実施 (2) エ・「わかる授業」をテーマに、授業研究を継続的に行う。 オ・授業において育成する基礎的・汎用的能力のコンピテンスを検討して明示する。</p>	<p>(1) ア・次年度の実施をめざし、前期に検討結果をまとめる。 イ・「生きる力」に関するコンピテンスの明確化。 ・明確化したコンピテンスをもとにアウトカムの指標(自尊感情・自己有用感・職業観労働観・自己理解・将来像に関するものを含む)を作成し測定する。(全項目プラス評価) ・進路未定率の減少(5ポイント以上) ・キャリア・カウンセリングの研修の実施 ウ・事業所等と連携した授業等の実施(2回以上) (2) エ・年間を通じた研究授業の実施(4回以上) オ・授業で求めるコンピテンスを検討し明示する(全教科)</p>	<p>(1) ア・総合学習において、キャリア発達を促す取組みを一層進めるため、I II部合同実施を導入するとともに内容を精査した。(○) イ・キャリア教育の求める基礎的・汎用的能力を本校のキー・コンピテンシーに定め、各教科・分掌等でそれぞれのコンピテンスを明確化させ学校教育計画に記載した。(○) ・アウトカムの指標(自尊感情・自己有用感・職業観労働観・自己理解・将来像)は、全項目プラス評価となり肯定率の平均は75%であった。特に将来像や職業観労働観は85%の生徒が入学後上昇している。しかし自尊感情は入学後の上昇が60%台に留まった。(○) ・進路未定(アルバイト・求職中・自己活動・未定・不明)率は5.4ポイント減少した。(○) ・キャリア・カウンセリングの研修として、アサーティブトレーニングを実施。初任者には進路面談等の研修を5回実施した。(○) ウ・キャリア教育の一環で事業所等と連携した授業等は7回実施した(◎) (2) エ・研究授業を10回、授業相互観察を全教員3回ずつ実施。1回の研究授業に平均30人程度参加するなど校内授業研究が定着した。(◎) オ・全教科、授業で求めるコンピテンスを検討し、取組みとあわせて学校教育計画に掲載した。(○)</p>
<p>3 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立</p>	<p>(1)総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み (2)支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開 (3)社会性育成のための取組み ア 地域の教育資源の活用 イ 達成感の得られる自主活動の充実 ウ 規範意識向上の取組み</p>	<p>(1) ・総合学習や特別活動等の枠を活用した、キャリア教育プログラムの教材を開発する。 ・人権教育の一環として、地域と連携したフィールドワークを実施する。 (2) ・「高校生活支援カード」の活用を進め、個に応じた指導と支援の充実を図る。 ・教育相談・支援教育推進のための研修実施 ・関係機関等と連携した支援の実施 (3) ア・地域等との交流を深め、講演や職場体験など授業・総合学習でサポートしてくれる事業所等をさらに増やす。 イ・生徒会・部活動・ボランティアなど自主活動への参加を促す仕組み検討の継続。 ウ・人間関係形成・社会形成能力の育成のため、規範意識向上の働きかけを、支援の観点を重視しながら、毅然とした姿勢で行う。</p>	<p>(1) ・キャリア教育推進PTを立ち上げプログラム開発。 ・地域を学ぶフィールドワークの実施 (2) ・「高校生活支援カード」を活用して「個別の教育支援計画」を作成 ・教育相談・支援教育に関する研修(2回) ・関係機関を交えたケース会議等の実施(10回以上) (3) ア・協力事業所等の開拓(8箇所以上) イ・検討結果まとめ次年度の計画に反映させる ウ・支援教育コーディネーターと協働した規律指導(10ケース以上)</p>	<p>(1) ・キャリア教育推進PT「ももプロ2nd」を立ち上げ、総合学習や特別活動で用いる教材を作成した。(○) ・地域のNGO職員を講師に教員が研修を受け、生徒には教員がナビゲーターとなって地域フィールドワークを行った。(○) (2) ・「個別の教育支援計画」を作成した生徒以外にも、支援や配慮の必要な生徒の情報を集約・整理している。(○) ・外部機関との連携、発達障がい理解など教育相談・支援教育に関する研修を2回実施(○) ・関係機関を交えたケース会議等は23回実施(◎) (3) ア・13箇所の施設や事業所等から授業等への協力を得た。(◎) イ・自主活動への参加を促す仕組みを検討。施設面や活動可能日などの制約が大きく抜本的解決策はできなかったが、生徒への働きかけの充実により3つの部が全国大会に出場するなど一定の成果は出た。(○) ウ・問題行動の減少に伴い規律指導における支援コーディネーターとの協働は減少、7ケースとなった。(△)</p>